

2026年6月8日

News Release

京都府医師会
株式会社 Preferred Networks
PSP 株式会社

京都府内の肺がん検診に AI 技術を用いた 胸部 X 線画像診断支援プログラムを本格導入

一般社団法人京都府医師会、株式会社 Preferred Networks(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:岡野原 大輔、以下「PFN」)、PSP 株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:依田 佳久、以下「PSP」)は、2025 年度に実施した宇治市肺がん検診での実証利用を経て、2026 年度に京都府内で実施される肺がん検診に、京都府医師会、PFN、PSP が共同開発した、AI 技術を用いた胸部 X 線画像診断支援プログラムを本格導入します。

本診断支援プログラムは、京都府医師会、PFN の協力のもと PSP が医療機器認証を取得したもので、胸部の異常所見の疑いが低いことを推定して読影端末に表示します。本診断支援プログラムを導入することで、読影医の業務負担を軽減し、中長期的な読影体制の維持と持続的な読影精度向上、京都府民の健康増進を目指します。

胸部 X 線画像診断支援プログラムの解析結果の読影端末での見え方(I)



胸部 X 線画像に異常所見の疑いが低いと「No Findings」が表示される

肺がん検診においては、比較的低コストかつ短時間で撮影できる胸部 X 線画像を用いることが一般的です。しかし、読影件数が非常に多く、さらにガイドライン*1 には見落としを防止す

そのため 2 名以上の読影医による多重読影が示されていることから、読影医の確保と診断負荷が課題になっています。AI 技術を用いた既存の診断支援プログラムは、異常所見の疑いが低い場合も陽性と判断されることが多いという課題がありました。

今回京都府医師会、PFN、PSP で共同開発した本診断支援プログラムは、京都府医師会が収集・診断した X 線画像を活用し、異常所見が含まれない正常例を特に多く学習した PFN 独自開発の AI モデルを使用しています。京都府内の肺がん検診では、検診者の画像をこのモデルで解析し、異常所見の疑いが低いと推定された場合は読影端末上に解析結果として「No Findings」を表示し、読影医の診断を支援することができます。従来の読影医 2 名による体制に変わりはなく、本診断支援プログラムを参考にして最終的な診断は医師が行います。

京都府医師会は、肺がん検診等の京都府内住民検診の読影を担っています。読影医の高齢化が進む中、本診断支援プログラムを活用することで、今後の検診読影を支える若手医師の参加を促し、読影体制の維持、読影の質的な均てん化により、京都府民の健康増進に貢献します。

PFN は、創業当初から医用画像領域の研究・開発チームを有しており、これまでデータサイエンティスト向けコンペティションプラットフォームである Kaggle における胸部レントゲン画像を用いた肺炎検出などのコンペティション*2 での上位入賞や国際学会での複数の論文採択実績があります。10 年以上にわたり蓄積してきた医用画像解析の知見と技術は、今回の診断支援プログラムの開発にも活かされています。

PSP は、医用画像管理システム(PACS)の開発、販売を主力事業としています。全国に約 2,600 施設の顧客を有し、稼働施設数ベースでは国内の 22%超のシェアを有しています。今後、市場における PACS シェアの拡大のみならず、病理、AI 関連事業、一般利用者向けの PHR サービス、医療データ活用事業等、新規サービスの展開を加速して参ります。

*1 有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン:平成 18 年度厚生労働省がん研究助成金「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班

*2 Kaggle と北米放射線学会が 2018 年に共催した胸部レントゲン画像の肺炎検出コンペティション「Kaggle RSNA Pneumonia Detection Challenge」など

本件に関するお問い合わせ

一般社団法人京都府医師会 担当:地域医療 2 課 chiiki-2@kyoto.med.or.jp

株式会社 Preferred Networks 広報担当:坂口、秋山 pfn-pr@preferred.jp

PSP 株式会社 担当:新規事業開発本部 new-biz-dev_div@psp.co.jp